

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハピネス国際ほみ放課後等児童デイサービス(放課後等デイサービス)			
○保護者評価実施期間	2025/10/6 ～ 2025/12/15			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○従業者評価実施期間	2025/10/6 ～ 2025/12/15			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026/1/21			

○ 分析結果

公表日 令和8年1月21日

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多言語による教育・養護を一体化したサポート。	どの言語でも語彙力またはコミュニケーション力を高めるサポートを行っている。社会に適應できる様に、英語・日本語のトレーニングを行っている。	利用者個別に言語の偏りがないようにコミュニケーションや発音練習を強化している。
2	一日の支援内容を職員間で常に情報共有。	その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	些細なことでも、常に見逃さない工夫を強化している。
3	工作・運動等、年齢や好みのばらつきがあり、一斉に同じことをすることが困難。	年齢差・利用時間差・好みの差	同じ素材・同じ場所で、個々の年齢、好みに寄り添いながら自然に集団行動が行える環境を提供していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	言語の壁によりコミュニケーションが難しい場合がある。	2か国語が話せる指導員が多くないため、学校などでコミュニケーションにすれ違いが起きることがある。それによる事後対応が億劫になってきている。	2か国語話せる指導員が同行することで利用者の不安を払拭できるように心がけている。
2	近年、保育園や発達センターなどと連絡・情報共有を行い、利用者に寄添った計画を立てたいが、コンプライアンス規制により改善のための遅延影響を感じる。	従来通り方法だと、園又は特別支援学校と連携により、こども達の課題を共有し対応する事でより効果の高い療育が行えるが、コンプライアンス規制と並行しての優先だと、情報不足で支援等が偏らないか懸念している。	送迎時等や園又は特別支援学校の職員とその日の様子等の情報交換はあるが個人情報や防犯対策の為、連携が取りづらい状況がある中で、自社職員・他の職員を含め、今後とどのように情報共有していくか緊張に検討したい。
3	安全管理の徹底の見直し	社内研修を行い、療育中、休憩中、送迎時の危険箇所の把握をおこなっています。来所前のミーティング時にスタッフの配置などを確認し、安全を確保しています。	例年通り、理解しているだろうではなく常にGMで危険箇所の確認を行う必要がある。スタッフそれぞれ危険性の感じ方が違う為、統一した安全管理に努めたい。